

— 学 会 録 事 —

日本藻類学会第4回ワークショップ：藻類分類基礎講座参加記

1989年4月1日(土)9:00~17:00, 東京女子体育大学において藻類分類基礎講座と題して, 第4回ワークショップが開催された。午前中は高橋永治先生により, 黄金色藻類の分類についてスライドと参考資料を用いた講義が行われた。まず, Chrysophyta の現在の分類体系の説明がなされ, その中で, *Lagynion*, *Chryso-coccus*, *Kephyrion*, *Chrysocapsa*, *Hydrurus*, *Ochromonas*, *Didymochrysis*, *Synchrypta*, *Uroglena*, *Anthophysa*, *Dinobryon*, *Chrysoylkos*, *Spiniferomonas*, *Chryso-sphaerella*, *Polylepidomonas*, *Phaeothamnion*, *Tetraparma*, *Triparma*, *Synura*, *Mallomonas* といった, 現存の日本産の属名が示された。次に Chrysophyta の分類の歴史, 全体的な形態, 色素・貯蔵物質・細胞壁の成分の他の門との比較, 鞭毛や鞭毛装置構造の比較, *Mallomonas*, *Synura*, *Paraphysomonas*, *Spiniferomonas*, *Chryso-sphaerella* の scale の構造や, scale によるグルーピングについてなどの講義があり, 最後にスライドで, 主に *Mallomonas* の scale の構造が示された。また, SEM による scale の簡単な観察法も紹介された。

昼食後, 地球温暖化の影響が一週間近くも早く満開に咲き誇った桜の花の下で参加者及び関係者による記念撮影が行われた。撮影場所の横のトラックでは陸上競技の記録会が行われており, 若い歓声を気にしながらの記念撮影となった。シャッターは記録会に参加する学生によるもので, 一同, 彼女の「はい, チーズ!」の声にいっそう顔をほころばせた。

午後からは加崎英男先生により車軸藻類の分類につ

いて, 参考資料とスライドを用いた講義と4種の車軸藻の観察が行われた。まず, Charophyta の分類体系及び分類基準の説明があり, 先端生長の仕方, 雌器・雄器のつき方, つき方, 各部位の名称等の説明の後, *Chara braunii*, *C. corallina*, *C. zeylanica*, *C. sejuncta*, *C. fibrosa*, *Nitellopsis obtusa*, *Nitella flexilis*, *N. pulchella*, *N. hyalina*, *N. fallosa* 等, 各々の種の説明がなされた。講義の後, 加崎先生が用意して下さった4種を実体顕微鏡を用いて観察し, 講義で聞いたばかりの様々な形質を実際に確認した。それらはジャジクモ, カタジャジクモ, クサジャジクモ, オトメフラスコモであり, この内, クサジャジクモは臭いにおいのためその名が付いているとのことで, 参加者一同バットに鼻を近づけてにおいを確認しようと試みたが, 多くの人の意見は別の種の方が臭いとのこと, 筆者も同意見であった。更に, 実体顕微鏡だけでは飽き足らず, 高倍の光学顕微鏡まで出していただき, 造精糸や橋細胞等, 雄器の細かい構造まで観察することができた。最後に, 4種をサンプルビンにいただいて帰った。いくつかの研究室ではこれらが教育材料として使われているかもしれない。

参加者は筆者のように基礎知識を補うために参加している者より, 実際に実験材料としてこれらの生物を使用したい人が多かったのではないかと思う。また, 学会には出席しないが個人的に非常によくこれらの生物を御存じの方もおられたようである。今回は一日の日程であり, 東京という土地柄のせいもあると思うが, 採集会もなく, スライドと用意された材料を見るところどまったのが少し心残りであった。最後に, 今回のワークショップ開催の労をとられた東京女子体育大学の福島博先生はじめ関係者の方々及び, 高橋, 加崎両先生に深く感謝いたします。

(国立公害研究所・笠井文絵)



第4回ワークショップ参加者

— 会 員 移 動 —
新 人 会

住 所 變 更

退 会

浜田真美（茨木県）、協和醸酵工業（東京都）、斉藤岳由（千葉県）、稲葉忠明（福井県）、中谷まり子（京都府）、山本俊夫（京都府）、山本真規子（兵庫県）、Smithsonian Institution (U.S.A.)

お詫びと訂正

藻類37巻2号162頁の退会者欄に、本学会会員である今津達夫氏（兵庫県）の氏名が掲載されましたが、その後、学会事務センターより学会事務局宛に、会員原簿に二重登録されていたものを訂正した際、誤って退会扱いにしたとの連絡がありました。氏に深くお詫びすると共に、これを訂正させていただきます。

お 知 ら せ

Korea-Japan Symposium on Phycology（韓日藻類学シンポジウム）

本年春の評議員会および総会において紹介があり、また持ち回り評議員会において大筋が承認された韓国藻類学会との合同の研究集会について、その後打合せの結果、標記のシンポジウムが開催される見通しとなりました。

シンポジウムのスケジュールとしては、

1989年11月22日（水）	到着，受付
23日（木）	招待者研究発表（両国各5名）
24日（金）	
25日（土）	見学（午前），解散

（会場はソウルの Lotte Hotel）

が予定されています。

このシンポジウムに自由参加を希望される方は、研究発表（著者名と標題を英文でお知らせください）の有無を含めて、下記宛にハガキで大至急お申込みください。研究発表の採択は先着順とさせていただきます。なお、使用語は英語です。（研究発表申込みの締切りは10月16日です。）

【申込先】 〒108 東京都港区港南4-5-7

東京水産大学 有 賀 祐 勝